



船で救助に向かう消防団 (太田本町4丁目、国道21・41号)



▲中央公民館も浸水

# 9.28災害

## 市が始まって以来の大洪水

昭和58年9月28日から29日未明にかけて、台風10号から変わった低気圧がもたらした大雨によって、木曾川が増水して、市が始まって以来の大洪水となり、市役所を含む大部分の市街地が浸水しました。

この災害で、死者1人、床上床下浸水家屋1676戸などの大きな被害を受けました。

その日は午後7時ごろから、水が木曾川の堤防をあふれ出し、とどまることなく水かさが増し、濁流となつて街中に押し寄せ、床下から床上へ、そして天井へと水位は上昇。

午後11時17分には、ついに今渡発電所の放水量が1万4千トンを超え、街の中は至る所で2階まで水が達しました。

逃げ遅れて、2階や屋根の上から助けを求めている被災者を、消防団らが船で救助しました。

一夜明けた街は、泥とごみに埋まり、濁流によって押し流された車や木材、家財などが至る所で重なり合っている山となり、すさまじい水害のつめ跡を残しました。

この災害では、急激な浸水のため、避難するのが精一杯で、貴重な家財などの移動が間に合わなかった人がほとんどでした。